

2023年8月30日

株式会社エコクリーン江別  
代表取締役 楠瀬 一郎 殿

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会  
委員長 押谷 一



## 第16回環境クリーンセンター等運営事業 評価報告書

日頃より江別市の廃棄物処理の一翼を担っておられる御社の事業に対して感謝申し上げます。

環境クリーンセンター等の施設・設備は、2002（平成14）年11月の竣工以来、21年目を迎えています。御社は2007（平成19）年8月に江別市より長期包括的運営管理の委託を受け、昨年3月末まで適正な運営管理に努められました。その後、2022（令和4）年4月1日より2037（令和19）年3月31日まで改めて受託契約を結ばれたことから昨年度は、契約2期目の初年度となりました。

今年は、世界的に気温が高温となるなど地球温暖化の影響が顕在化しているほか、昨年2月に始まったウクライナに対するロシアの侵攻などによって原油価格をはじめ諸物価が高騰し、原材料の確保や人材確保も難しい状況が続いています。

環境クリーンセンターの施設及び設備については、運転開始から20年以上を経過していることから、老朽化、経年劣化が進んでいますが、御社は安全かつ適正に運転するための業務を担っています。一企業として適正な利益を上げるだけでなく、社会的な責任と公益性をもつ事業であることを貴職はじめ従業員ならびに関係会社全員が十分に認識し、安定した運転管理をはじめ環境対策に対しても安心・安全に配慮のうえ、健全な経営を行っていただく必要があります。

こうした状況の下で、7月26日に御社における環境クリーンセンター等運営事業を評価するため、別紙の5名の評価委員による第16回環境クリーンセンター等運営事業評価委員会を開催いたしました。

本評価委員会は、例年と同様に対面で実施し、2022（令和4）年度の御社の環境クリーンセンター等運営事業について関連データなどを踏まえた詳細な説明を受け、質疑にも応答いただきました。それによれば労働災害をはじめ重大な事故による長期に亘る運転停止に至るような不具合は発生せず、適正に操業してきたとのことでした。

事業内容に対する説明の後、いったん貴殿ならびに関係者にご退席いただき、委員のみで評価について協議を行いました。その結果、下記の通り評価することとしましたので報告いたします。

### 記

評価結果：環境クリーンセンター等運営事業評価委員会では、2022（令和4）年度の株式会社エコクリーン江別（ECE）の事業について、次の事項について楠瀬一郎代表取締役はじめ関係者から報告を受け、評価について協議を行った。その結果、すべての事項について特段の問題はなく、適正に運営されていると総合的に評価する。

- 評価事項
1. 運転・維持管理について
  2. 環境保全について
  3. 事業経営について
  4. 環境整備および地域貢献について

(別紙)

## 環境クリーンセンター等運営事業評価委員会

### 委員名簿

(敬称略、順不同)

|         | 氏 名     | 所 属 団 体           |
|---------|---------|-------------------|
| 委 員 長   | 押 谷 一   | 酪農学園大学名誉教授        |
| 副 委 員 長 | 星 優 子   | 日本リサイクルネットワーク・えべつ |
| 委 員     | 中 井 悦 子 | 江別消費者協会           |
| 委 員     | 松 下 博 樹 | 八幡自治会             |
| 委 員     | 森 木 健 一 | 江別建設業協会           |

## I. 評価事項に対する説明の概要

### 1. 運転・維持管理について

江別市の要求水準書に定められた業務を適正に実施するための組織体制について2022（令和4）年4月1日現在の「江別市環境クリーンセンター運転維持管理に係る組織体制」の説明を受けた。

それにより、楠瀬一郎代表取締役以下、廃棄物処理施設の運転に関わる技術管理者、ボイラータービン主任技術者、防火管理者など法令で定められ運転維持管理のために必要とされる有資格者が適正に配置されていること、職制によって勤務時間帯は異なるが、適正な運転管理を行うための運営体制となっていることなどを確認した。

#### （1）ごみ搬入量

2022年度は、前年度に比べ、ごみ搬入量について可燃ごみが1.4%減、不燃・粗大ごみが5.9%増となり、直接埋め立てごみ量は24.6%の減となっている。埋め立てごみの減少は、昨年度は火災による災害ごみの受け入れがあったため一過性であったことによる。ごみの総量は0.8%の減である。直近の3カ年の推移をみると可燃ごみは減少傾向にある一方、不燃・粗大ごみの搬入量、直接埋め立てのごみ量については今後経過を観察するとのことである。

#### （2）焼却施設の運転状況

##### ① ピット受入量

前年比で可燃ごみは1.4%減、排水処理に伴って発生する脱水ケーキは34.2%の減、破碎施設からの選別可燃物が4.3%増となり、ピット受入総量は1.3%の減であるとの説明を受けた。

脱水ケーキが減少しているのは、新最終処分場浸出水原水のカルシウム濃度低下のために添加する炭酸ソーダの使用量が減少しているためであるとの報告を受けた。

##### ② 可燃ごみ処理量

可燃ごみの処理量については、前年比で2.0%減となっているとの説明を受けた。

##### ③ 資源化物量、最終処分量

資源化物総量については、溶融スラグが減少している一方で、ミックスメタル（金属類）が増加しており、前年比で3.1%減、最終処分量（脱塩残渣固化物）は4.3%の減となっているとの説明を受けた。

#### （3）破碎施設の運転状況

##### ① 不燃・粗大ごみ処理

処理量は、前年比で5.4%の増となったとの説明を受けた。1日当たりの処理量は昨年度に比べて大きな変化はなく14.0トン/日とのことであった。

##### ② 資源化物量、焼却・埋立量

資源化物量は、前年比で11.6%増となっていること、不燃「もやせないごみ」・粗大ごみとして搬入されたごみは2,919.87tのうち、およそ73%（2,117.30t）が可燃ごみピットに送られ焼却処理しており、この3カ年と同様の割合であるとの説明を受けた。

#### (4) 新最終処分場（現在、運用中の処分場）

##### ① 埋立処分量

前年度に比べて容積ベースで 59.8% の大幅な減となっているが、これは 2022 年度に埋立エリアが第 2 ブロックに移ったため覆土施工がなくなったことによるもので、覆土を除いた量は前年度とほぼ横ばいである。直接搬入ごみに関しては 12.4% 減となっており、既に述べたように火災による災害ごみの受け入れがなかったことによるとの説明を受けた。

##### ② 浸出水原水、放流水の水質

要求水準書にもとづいて水質測定を実施しているとの説明があった。浸出水は処理施設で環境基準を達成するように処理された後、放流されている。汚染度を示す BOD（生物化学的酸素要求量）、SS（浮遊物質量）、Ca<sup>++</sup>（カルシウム）などの、処理後の放流水の水質については、すべて基準値内であることの説明を受けた。

#### (5) 旧最終処分場（運用を完了）

浸出水は、適正に処理され、放流水の水質は、すべて基準値内であるとの説明を受けた。

可燃ごみ及び不燃・粗大ごみの搬入状況、焼却処理、資源化物の回収状況、最終処分（埋立）ならびに浸出水の処理について、データに基づいて説明を受け、特段の問題がないことを確認した。運転日報、データなどについては、適正に記入され、保管されていることを原本によって確認した。

#### (6) 重大事故、労働災害の発生

2022 年度においては、運転の全面停止に至るような重大な事故、不具合は発生していないとのことであった。

熱分解ドラム出口部に金属の塊が滞留し、運転停止になった案件について説明を受けた。これまで同様の事案についてはいわゆる重大な事故ないしトラブルとして報告されていたが、設備などの損壊、人身事故などにつながっていない場合には「計画外停止」として報告する旨の説明があり、当評価委員会としても了解することとした。

そのうえで、2022 年度において発生した事案について説明を受けた。それによれば 5 月から 6 月にかけて 2 回、1 系の熱分解ドラムの内部圧力に異常があることが発見され、5 月上旬（4 日立下げ 12 日処理再開）、5 月末から 6 月初旬（5 月 31 日立下げ 6 月 3 日処理再開）に処理ラインの計画外停止が発生したとのことである。いずれも熱分解ドラムに投入される前の破砕機（2 軸のせん断機）で破砕された金属製ワイヤー、チェーンなどがコアとなって金属塊になり、ドラム内の対流が阻害され内部圧力が高くなったことを中央操作室のモニタリングで検出し、運転を停止したとのことである。運転停止後、冷却したのち、作業員が中に入り、金属塊の払い出しを行って安全を確認のうえ運転が再開された。

異物混入について、市民に対する啓発の強化を江別市に対してお願いしていただきたい。なお、今回の事案のような金属塊のコアとなるワイヤー、チェーンといった金属製の異物の混入については、家庭系のごみ（例えば、クリーニングの針金など）ではなく事業系のものが原因であると考えられるとのことであった。

## 2. 環境保全について

環境保全業務については、測定、分析すべき項目、頻度などは要求水準書に記載されている事項について

て、定期分析計画、分析結果を示しながら説明を受け、すべて問題がないことを確認した。

本施設においては、国の環境基準を遵守することは当然であるが、それより厳しい基準値を定めた江別市が独自に環境基準値を設定し、すべての項目でそれをクリアーしているとの説明があった。

作業環境測定において破碎施設の騒音対策についてはこれまでの委員会でも指摘されていたが、作業員はウレタンフォームタイプの耳栓着用などを徹底していること、点検時などには確実に機器を停止してから立ち入ることなどの対策を厳守しているとの説明があった。なお、この場所を通行する作業員については、他の作業員と同様年2回の検診を受けており、健康状態の異常はないとのことである。

### 3. 事業経営について

収支決算状況などの改善など経営にかかわることについては、定期的で開催される取締役会、株主総会が責任をもつべきことであり、本委員会としては、決算書などから江別市との契約を交わすことのできる事業主体として適当であるかという視点から評価を行うこととした。

本年6月2日に定時株主総会が行われ、事業報告ならびに第16期決算を報告し、承認されている旨の説明があった。なお、運転に必要な灯油、薬品などの消耗品費および光熱費などは従前ECEが負担していたが、2022年度より運転管理業務を委託しているJFE環境テクノロジー(株)(JET)がそれらを委託費から支払うことになり、2022年度は前年度に比べて諸物価高騰の影響が小さかったことから、利益が9,451千円増加している。それらも含め繰越利益剰余金は、合計17,858千円となっている。

計上された費用のうち消耗品の購入、工事請負費等を江別市内の業者に支払われた分(市内調達率)は、全体で15.1%となっている旨の説明があった。2022年度より消耗品費や光熱費を含めて委託しているJETの本社が千葉県にあることから、市内調達率が前年度より減少したことはやむを得ないが、可能な限り市内調達率を上げるように努めていただきたいとの意見が委員からあった。

さらに楠瀬一郎代表取締役より「環境関連団体・組織などとの協力体制について」の説明があった。それによれば地球温暖化による気候変動の原因となる温室効果ガスの排出ゼロを目指す脱炭素社会(ゼロカーボン)の実現に向けてECEも環境保全に関する体験や学習機会などを地域のグループ、各種団体、NPOなどとのパートナーシップによって積極的に取り組み、社会的な責任を果たしていく企業経営を進めていくとの決意が表明された。

### 4. 環境整備および地域貢献について

地域との連携を強化するとともに、地域貢献のための事業についても積極的に取り組んでいる旨の説明を受けた。江別市の子育て支援事業への協賛、支援として子育て世帯に指定ゴミ袋の提供を行うとともに、周辺環境の整備のために八幡自治会主催の八幡8号道路周辺の清掃活動に積極的に社員が参加したほか、緑化のため植樹した施設周辺樹木の維持管理に努めている旨の説明を受けた。現在、敷地内の樹木は合計1,041本、低木は111本となっている。

例年、市内在住の親子を対象にした「環境フェア★イン八幡」の開催は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止した旨の説明があった。なお、今年度はコロナ対策が緩和されたことにより可能な範囲で実施の再開を検討しているとのことであった。

2022年度の環境クリーンセンターの視察・見学は、行政視察による2団体、合計12名であった。

なお、昨年度までコロナによる影響で市内外の関係団体・個人の視察・見学の受け入れを中断していたが、今年5月に国によるコロナ対策が緩和されたことにより今年度から再開している旨の説明があった。

さらに御社の担当者からの説明に加えて運転管理業務を委託しているJFE環境テクノロジー株式会社・友山義文氏ならびにクボタ環境エンジニアリング株式会社・寺内辰雄氏にオブザーバーとして陪席いただき、技術的な事項の質疑に応じていただいた。友山氏よりは、施設・設備の経年劣化はみられるが、必要に応じて順次、消耗部分の更新を進めており、今後も安定した事業運営は可能であるとのコメントをいただいた。寺内氏からも必要な補修などを実施しているが、施設・設備には問題ないとのコメントをいただいた。

## II. 総括

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会は、株式会社エコクリーン江別の2022（令和4）年度事業を評価するため、2023（令和5）年7月26日に評価委員会を開催した。

委員に対しては、事前に測定データなどを記した関係資料が送付され、委員会の席において、楠瀬一郎代表取締役ならびに担当社員より事業内容について詳細な説明があった。

評価委員会では、評価事項すべての説明および質疑応答を終えた後、関係者の退席を求め、委員全員による評価について検討を行った。その結果、委員全員一致により御社の環境クリーンセンター等の2022年度の運営事業については、特段の問題はないと評価する旨の結論に至ったのでここに報告する。

本施設は、稼動開始後20年を経過していることから経年劣化などもみられるが、昨年度においては労働災害をはじめ重大な事故などは発生することなく安定した運転がされたとのことであった。

しかしながら従前にも増して、適正な処理はもとより周辺環境の保全ならびに、ゼロ・カーボン、リサイクルの推進など地球的規模の諸課題の解決に向けたSDGsの目標に向けて御社も可能な限り取り組みを進めるとともに、従業員全員の安全第一のもと、安定した事業運営に努めていただきたい。

本委員会で委員に対して呈示された運転状況、環境測定結果などの詳細なデータなどについてはホームページ上では公開していないが環境クリーンセンター内事業所を来訪し、閲覧を希望する者には閲覧を許可していただくとともに、本委員会より提出するこの「評価報告書」は例年のようにホームページ上で公表するなど、市民に向けて積極的な情報公開に努めていただきたい。

以上